

新興国での「リープフロッグ」に注目  
～新興国発のサービスが世界標準になることも～

新興国の強みとして、人口増加率の高さや労働力の若さなどが挙げられますが、今後は、技術の進化や利便性の高い新技術の登場などに伴う、「リープフロッグ(leapfrog: 蛙飛び)」が注目されます。これは、多くの新興国で、固定電話の普及を経ずに携帯電話が一般化し、スマートフォン(スマホ)が普及したように、段階的な発展を経ず(=途中の段階を飛び越し)、最先端の技術・サービスが一気に広がることを指します。

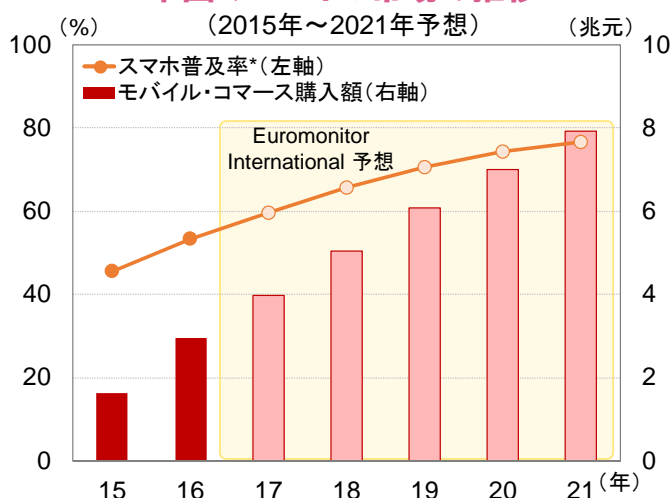
「リープフロッグ」は、先進国のように社会基盤整備が進み、インフラが生活の隅々まで張り巡らされていたり、法や規制が浸透している国よりも、それらが整っておらず、しがらみの少ない新興国において起きる可能性がより高いとされています。例えば中国では、スマホの普及に伴ない、モバイル・コマースが広がるとともにモバイル決済の普及も進み、その決済額は2016年で約38兆元(約640兆円)と、米国での決済額の約50倍にも及んでいます。このように、中国では、クレジットカードの普及を経ずに、モバイル決済が拡大し、キャッシュレス社会に一気に突き進むという「リープフロッグ」が起きています。

「リープフロッグ」が特に期待される分野の一つとして、金融とIT技術が融合した「フィンテック」が挙げられます。新興国の場合、金融機関のサービスやネットワークが先進国のように整っていなかったり、規制などが相対的に緩い国が少なくありません。そこに新たな発想や最先端のテクノロジーが導入されることにより、新サービスが生まれ、潜在的な需要の掘り起こしなどにつながる可能性は高いと考えられます。ちなみに、コンサルティング会社KPMGと豪投資会社H2ベンチャーズによる、最も成功しているフィンテック・イノベーターのランキング「フィンテック100」の2016年版では、トップを含む上位5社中4社が中国企業となっています。

なお、今月半ばには、中国のネット通販最大手が、中国で成功した事業モデルを日本に持ち込み、スマホを使った日本人向けの電子決済サービスを来春にも始めると報じられています。このように、今後は、新興国で先行して普及したサービスなどが、やがて先進国でも普及するという、「リバース(「逆」)・イノベーション」と呼ばれる現象が増えることも考えられます。そうした可能性も含め、新興国での「リープフロッグ」を機に、急速に広がる可能性のある新サービスや関連銘柄が注目されます。

## 中国のモバイル市場の推移

## 中国を席巻する、スマホ関連サービス



サービス	特色など
スマホ決済	スマホを使った、キャッシュレス決済。屋台でも導入されるなど、社会の隅々まで浸透。店側はQRコードを掲示しておくだけで、カード読み取り機などを導入するコストがかからないことなどが普及を後押ししている。
タクシー配車アプリ	都市部では、タクシーを呼ぶのに配車アプリの利用が当たり前となり、同アプリを使わず、流しのタクシーを捕まえるのが困難なことも。
シェア自転車	車体のQRコードをアプリで読み込むと、解錠され、利用時間をもとにネット決済する。利用後は、契約する駐輪場であればどこでも手放してもよい。手ごろな値段や、どこでも乗り捨てられる利便性が普及を後押ししている。

報道などをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。